

# 世界文化遺産「高山社跡」があるまち 藤岡

藤岡市長(群馬県)

新井利明



### はじめに

藤岡市は世界文化遺産である「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の一つ「高山社跡」を保有している。本市は、石器時代の住居跡や古墳時代の史跡を数多く有す



絹市の様子を描いた図「諸国道中商人鑑」より

ることが示すように古くから栄え、室町時代には関東管領職にあった山内上杉憲実が平井城を築城し、江戸時代には「日野絹」の集散地としてにぎわい、近年は養蚕と瓦産業で隆盛するなど、多くの人々が行き交じる交流都市として発達してきた。

現在は、首都圏から約90kmに位置し、関越自動車道と上信越自動車道が合流する自動車交通の要衝であること、花と緑と清流の豊かな自然環境と、長い歴史に培われた歴史風土、伝統文化を生かして、企業誘致と観光振興に積極的に取り組んだまちづくりを行っている。

### 藤岡市と3つの街道

藤岡市は、群馬県の南西部に位置し、中山道・下仁田街道・十石

街道が通過する。中山道は本市の北端をわずかに通っている。下仁田街道は、本市を東西に走り、市街地で十石街道と交差する。十石街道は、新町宿から本市の市街地を南北に走り、天領であった多野郡神流町・上野村を経たのちに、十石峠を越えて信州佐久に通じている。佐久米が日に十石の割合で峠を越え山中領に入ってきたことから、十石峠と呼ばれるようになったと伝えられている。

### 絹の集積地として花開く

江戸時代、中山道の脇街道の宿場町として栄えた藤岡市は、多くの人や物産、文化が行き交い、さらに、日野絹の集積地として発展した。「絹市」には、三井越後屋呉服店(現在の三越)も出店され、江



下仁田街道に面し、由緒ある動堂観世音が安置されている一行寺

戸や大阪からも商人が訪れるほど盛況していたと伝えられている。また、現在においても、絹に連なる歴史を背景に、都市間交流の実現が図られている。平成25・27年、諏訪神社宮神輿の「里帰り」が実現した。三井越後屋呉服店(現在の三越)が絹市出店の礼として、安永9年(1780年)諏訪神社に宮

神輿が奉納された。その神輿を神田祭(室町一丁目祭)において、藤岡市民で巡行を行い、日本橋との交流を深める橋渡しとなった。

## 下仁田街道と一行寺

下仁田街道沿いにある一行寺は、城下を整備した芦田康貞が元々あった「本動堂」の地からこの地に移したもので、安置される「動堂観世音」は鎌倉時代初めに起きた干ばつの折に、お堂が揺れて甘雨をもたらしたご利益を授かった仏像である。以来、町を通る下仁田街道は「動堂通り」と呼ばれるようになった。

## 十石街道と社寺

下仁田街道と十石街道が交わる



増信寺門前にある道標は、往来する旅人が道に迷わないよう建てられたものを当寺へ移設したもの

一丁目には、角柱の道標が建てられていたが、現在では近隣の増信寺の門前に移されている。

十石街道は市街地の外れで、諏訪神社鳥居前を通過する。諏訪神社の社殿は全長57mの前方後円墳の墳頂に建立する。ちなみに市内には千四百基余りの古墳がある事が知られており、古墳王国群馬でも、本市は屈指の古墳分布圏をもつ。

さらに、旧鬼石町に向かう十石街道は、浄法寺に至る。浄法寺は弘仁8年(817年)に最澄(伝教大師)が本地を訪れ、本寺で法を説いたので大勢の人が押し寄せたと伝えられる。

山間地に所在する満福寺には、桃山時代に描かれた国指定重要文化財の南蛮画「紙本著色泰西王



十石峠に向かう街道にあり、桃山時代の南蛮絵が所蔵されていた満福寺

侯図二幅」が所蔵されている。これは、キリシタン布教やポルトガル貿易船の来港などによりもたらされた西洋画を手本に日本画の材料を用いて描かれたものである。

## 世界文化遺産「高山社跡」

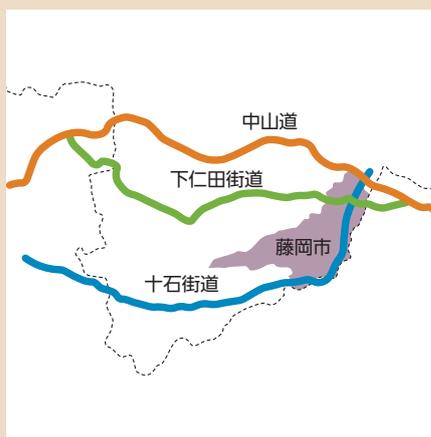
中山道や下仁田街道、十石街道は、絹市で栄えた本市から江戸や

京都への「絹の道」として使われていた。絹市の発展は、「高山社跡」を「官営富岡製糸場」とともに世界文化遺産登録へと導いたものである。高山社跡は、「清温育」という画期的な養蚕飼育法を考案した高山長五郎の生家であり、のちに養蚕技術者を養成した分教場として、日本の絹輸出産業の底上げに貢献した。

## 一口メモ

## 藤岡の繁栄を支えた諸街道

藤岡市には、「中山道」「下仁田街道」「十石街道」などが通り、古くから交通の要衝として繁栄してきた。藤岡市の中心部である藤岡地区



は、江戸時代には周辺から産出される絹の集散地として栄え、『絹市』が開かれていた。江戸や大坂からも多くの商人が訪れるほどの盛況で、そうした地域の活況を背景に、江戸で名声を博した浮世絵師・菊川英山が多くの作品を残すなど芸術文化が花開いた。

諏訪神社に残る宮神輿は、当時藤岡市に支店があった三井越後屋が奉納したものである。藤岡市にはこうした絹産業や養蚕に関連した文化資源が今も数多く残されている。

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」